

株式会社 共和工業所

スウェーデン鋼(耐摩耗鋼・高張力鋼)を加工販売



本 社◎岡山県倉敷市松江4丁目2番3号
 代表取締役◎石本 隆一
 創 業◎1954(昭和29)年9月
 設 立◎1955(昭和30)年11月
 資 本 金◎4,500万円
 従業員数◎65名

事業内容◎機械設備の設計・製作、鋼材加工・
 販売、機械部品製造
 工 場◎本社工場、機械加工工場、鋼材切
 断工場(各・倉敷市)
 関連会社◎(株)インテック共和
 U R L◎http://www.kyowa-gr.co.jp

2008(平成20)年秋に世界を襲ったリーマンショックは、わが国経済にも深刻な悪影響を及ぼし、厳しい業況から立ち直れず、また立ち直りの方法の糸口すら見いだせないで困窮している企業も多い。しかし、厳しい経済状況下であっても、世の中には不況を逆手にとり、逆境を跳ね返すべく果敢な挑戦を続けている企業も多数存在する。今回はそのような地元企業の一つ、共和工業所を紹介する。

◆三菱重工業の協力工場として創業

同社の創業者である故・石本春四氏は元・三菱重工業の社員で、1943(昭和18)年から同社水島航空機製作所(現・三菱自動車工業水島製作所)の開設に伴って水島勤務となった。その後独立し、1954(昭和29)年に石本組を創業。新三菱重工業水島製作所(現・三菱自動車工業水島製作所)の協力工場として、使い古された工作機械の精度修理業務を行った。

1955(昭和30)年には、同じく協力工場であった和泉組(製缶と工業用水用井戸のポン



本社全景

プ製造を担当)と合併し、(有)共和工業所を設立。社名は、当時の2社が「共に和をもって会社を盛り立てて行こう」という願いをこめて命名したものである。

◆切断工場を整備し鋼材販売を開始

同社は現在、本社エンジニアリング工場、機械加工工場、鋼材切断工場の3工場を有している。設計から鋼材の切断、溶断、レーザー及びマシニングセンターによる精密加工、組立、構造物の設置まで、ワンストップ・サービスを誇り、自動車関連をはじめ様々な機械設備を手掛けてきた。

鋼材切断工場を整備したのは、一段の納期短縮化のためであった。それまでは必要な寸法の材料をその都度仕入れていたが、鋼材として仕入れ、自社で加工することで時間的なロスを改善した。さらに思わぬメリットとして、在庫として余った鋼材を商材として加工販売することが可能となった。単なる卸売販売と異なり、同社は顧客の要望に合わせた自由自在な加工に強みを発揮し販路拡大に成功。こうして、鋼材販売は機械設備の設計製作と並ぶ同社の主力事業に成長している。

◆リーマンショックが契機となりスウェーデン鋼に着目

2000年代に入ると、それまでの経営環境に大きな変化がみられるようになっていった。国内製造業の海外生産比率が高まり、国内向けが中心の同社の受注は伸び悩んだ。2008(平

成20)年9月のリーマンショックはさらに追い打ちをかけた。

「厳しい時代を生き残ってゆくには、結局のところ他社との差別化しかない」。そう痛感した石本社長が着目したのがスウェーデン鋼であった。スウェーデン鋼とは、スウェーデンの大手製鉄メーカーであるSSABスウェーデン・スチール社(以下SSAB社)製の鋼材であり、純度の高い原材料、独自の焼入工程、バランスのとれた合金の組み合わせにより、耐摩耗性や高張力性に優れた特殊鋼である。耐摩耗鋼板(HARDOX:ハルドックス)や高張力鋼板(DOMEX:ドメックス)などの種類があり、強度と耐久性に優れ、軽量化と長寿命化を実現する素材として知られていた。ただし、難加工材であるという大きな欠点があった。

ユーザーは自社に高度な加工技術がないかぎり、使いこなすことができず、国内に何社かの取扱店があったが、販売の取り次ぎをするだけという状況であった。こうしたことが、素材としての評価は高いものの、国内での普及が進まない原因になっていた。

同社はそれまで、スウェーデン鋼の要望がある都度、販売店からスポットで仕入れていたが、仕入頻度が多かったため、ある日、商社の担当者からSSAB社と直接取引してみてもどうかとの打診があった。世界的な大手製鉄企業であるSSAB社は、それまでも中小企業との取引は行っていたものの、リーマンショックで鉄鋼需要が大幅に減少したため新たな取引先の開拓に注力しているというのだ。同社にとっては夢のような話だった。

実は、同社では試行錯誤の末、独自にスウェーデン鋼の加工技術を編み出していた。NC工作機械の刃の選定をはじめ、各種設定条件とその結果のデータの蓄積から、切断、穴あけ、切削、溶接、曲げなどの技術を修得していたのである。それはSSAB社が驚くほどの見事な技術力であったという。



社長
石本 隆一氏

3代目社長。現在、次男の隆宏君が選手として活躍する地元水球チームの応援に熱が入る。座右の銘は「凡事徹底」。重役出勤はせず、毎朝7時に社員とともに出勤。

こうして、2009(平成21)年11月、同社はSSAB社との直接取引によるスウェーデン鋼の加工販売を開始した。単なる鋼材販売ではなく、様々な難加工にも対応できるのが同社の強みで、採用を敬遠してきたユーザーの潜在需要の掘り起こしが期待される。この取り組みは2010(平成22)年3月に経営革新計画として岡山県の承認を受けている。



「ハルドックス」で加工した同社製品:
 押出機の中で使用される「スクリーン」という部材

同社が取り扱うスウェーデン鋼は、現在のところ破砕機やトラックの荷台など、損傷が激しく耐久性を要する部材向けが中心である。しかし、丈夫で長持ちという特性は、今後、様々な分野での応用が期待される。スウェーデン鋼の普及は、アジア地域では1位が中国、2位が韓国、3位がオーストラリアで、日本は4位というデータもある。スウェーデン鋼の普及が遅れている日本であるが故に、今後の普及の余地は大きく、同社では事業の柱に育てていく方針である。同社の今後の挑戦が注目される。(当研究所 西村 宰)